令和３年度 JA佐渡 おけさ柿病害虫防除暦

【表示されている農薬の使用基準は令和2年12月10日現在の登録内容です】

回数	散布時期	主な対象病害虫	ボルドー体系 薬剤名又は展着剤	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100L あたり薬量	10a散布量ﾘｯﾄﾙ 手散布()はSS散布	無ボルドー体系 薬剤名又は展着剤	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100L あたり薬量	備考欄（使用上の注意など）
臨時	３月末まで（休眠期）	ｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	ハーベストオイル	50倍	発芽前	―	2ﾘｯﾄﾙ	250 (200)	ハーベストオイル	50倍	発芽前	―	2ﾘｯﾄﾙ	・発生園では必ず散布する。粗皮けずり後に散布すると効果が高い。 ・落葉は３月中旬までに集め、埋める。 ・薬剤散布は無風の暖かい日を選び、主枝、亜主枝の分岐部分にたっぷりかける。
臨時	発芽前～発芽期	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	スタークル顆粒水溶剤（樹幹塗布）	2倍	発芽前～発芽期	1	薬量 1g 水 1ml	1樹 20～40g/樹	スタークル顆粒水溶剤（樹幹塗布）	2倍	発芽前～発芽期	1	薬量 1g 水 1ml	前年フジコナカイガラムシが多発した樹やその周辺樹に対して塗布する。（直前に塗布する箇所の粗皮を削りとる。） ※発芽期の塗布が効果的なので、生育を診て実施すること。 ※使用方法についてはJAの指導を受けること。
臨時	５月上旬（展葉初期）	ﾊﾏｷﾑｼ類 ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｹﾑｼ類	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日	3	20ml	350 (250)	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日	3	20ml	・害虫多発の場合、発生状況を確認し散布する。 ・ｻﾑｺﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙ10に替えてﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ水和剤34でもよい。ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ水和剤34を散布する場合は散布遅れの無いよう注意する。
臨時	５月中旬（新梢停止直前）	ｶｷｻﾋﾞﾀﾞﾆ ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ	コテツフロアブル	4,000倍	14日	2	25ml	350 (250)	コテツフロアブル	4,000倍	14日	2	25ml	・昨年ｻﾋﾞﾀﾞﾆの被害が発生した園地では必ず散布する。 注）開花後は薬害のおそれがあるので、必ず開花前に散布する。
1	開花直前（５月下旬～６月上旬）※生育に合わせて散布する	ｶﾒﾑｼ類 ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類 ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ ｱｻﾞﾐｳﾏ類 落葉病 うどんこ病 灰色かび病 炭疽病	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3	50g	400 (350)	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3	50g	・ｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤に替えてﾃﾞｨｱﾅWDGでもよい。 ・アザミウマ類の飛来時期となるので、散布時期が遅れないように注意する。
			オンリーワンフロアブル	2,000倍	前日	3	50ml		オンリーワンフロアブル	2,000倍	前日	3	50ml	・落葉病の感染期に入るので、散布ムラがないようにたっぷり散布する。
2	６月中旬	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ﾊﾏｷﾑｼ類 ﾌｼﾞｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ 落葉病 すす点病 炭疽病 うどんこ病	トクチオン乳剤	1,000倍	75日	2	100ml	400 (350)	トクチオン乳剤	1,000倍	75日	2	100ml	・ﾋﾞｵﾈｸﾄに替えてﾍﾞﾙｸｰﾄ水和剤でもよい。 **【落葉病重点防除期間**（6月中旬～7月中旬）**】** **前年発生ほ場は特に注意！** **●散布ムラが出ないよう丁寧に散布し、無ボルドー体系については、防除間隔を14日以上空けない。** **●防除効果を高め、ｱｻﾞﾐｳﾏ類の発生を低下させるため、新梢管理を丁寧に行う。**
			2-10式ボルドー 生石灰	2-10式	―	―	1,000g		ビオネクト	1,000倍	14日	5	100g	
			2-10式ボルドー 硫酸銅	2-10式	―	―	200g							
3	６月下旬	ｶﾒﾑｼ類 ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ ﾌｼﾞｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ ｲﾗｶﾞ類 落葉病 うどんこ病 炭疽病	スミチオン水和剤40	1,000倍	30日	3	100g	400 (350)	スミチオン水和剤40	1,000倍	30日	3	100g	
			2-10式ボルドー 生石灰	2-10式	―	―	1,000g		スコア顆粒水和剤	3,000倍	前日	3	33g	
			2-10式ボルドー 硫酸銅	2-10式	―	―	200g							
			展着剤	下記各展着剤使用基準による					展着剤	下記各展着剤使用基準による				・カイガラムシの発生が多い場合は、モスピラン顆粒水溶剤に薬剤を変更する。 ・スミチオンの高温散布時は薬害が発生する恐れがあるので注意する。
臨時	６月下旬～７月上旬	落葉病 すす点病 炭疽病 うどんこ病						400 (350)	ビオネクト	1,000倍	14日	5	100g	・降雨が多い場合や散布間隔が開く場合に実施する。（無ボルドー体系のみ） ・ﾋﾞｵﾈｸﾄに替えてﾁｵﾉｯｸﾌﾛｱﾌﾞﾙでもよい。
4	７月上旬	ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ ｶﾒﾑｼ類 ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ ｶｷｸﾀﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 落葉病 すす点病 炭疽病	ＭＲ．ジョーカー水和剤	2,000倍	14日	2	50g	400 (350)	ＭＲ．ジョーカー水和剤	2,000倍	14日	2	50g	・ｶｲｶﾞﾗﾑｼ多発園ではｽﾌﾟﾗｻｲﾄﾞ水和剤を単用散布する。
			2-10式ボルドー 生石灰	2-10式	―	―	1,000g		オーソサイド水和剤80	1,000倍	7日	5	100g	
			2-10式ボルドー 硫酸銅	2-10式	―	―	200g							
			展着剤	下記各展着剤使用基準による					展着剤	下記各展着剤使用基準による				
5	７月中旬	ｶﾒﾑｼ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 落葉病 すす点病 炭疽病 うどんこ病	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	50ml	400 (350)	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	50ml	・この時期以降、高温時の散布は薬害発生の可能性があるので注意する。 ・すす点病感染時期のため、新梢管理を行い通風採光をはかる。 ・ﾋﾞｵﾈｸﾄに替えてﾄｯﾌﾟｼﾞﾝ水和剤でもよい。
			2-10式ボルドー 生石灰	2-10式	―	―	1,000g		ビオネクト	1,000倍	14日	5	100g	
			2-10式ボルドー 硫酸銅	2-10式	―	―	200g							
			展着剤	下記各展着剤使用基準による					展着剤	下記各展着剤使用基準による				
6	７月下旬	ｶﾒﾑｼ類 ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ 落葉病 すす点病 炭疽病	テルスター水和剤	2,000倍	14日	2	50g	400 (350)	テルスター水和剤	2,000倍	14日	2	50g	・乾燥が続く場合は、生理障害対策のため灌水を実施する。 ・前年、うどんこ病が多発した園地は、スコア顆粒水和剤を散布する（単用散布）。 ・ｶﾒﾑｼの発生が多い場合はｻﾑｺﾙﾌﾛｱﾌﾞﾙに替えてｽﾀｰｸﾙ顆粒水溶剤でもよい。
			オーソサイド水和剤80	1,000倍	7日	5	100g		オーソサイド水和剤80	1,000倍	7日	5	100g	
			展着剤	下記各展着剤使用基準による					展着剤	下記各展着剤使用基準による				
7	８月中旬	ﾊﾏｷﾑｼ類 ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｹﾑｼ類 うどんこ病 すす点病 炭疽病 灰色かび病 落葉病	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日	3	20ml	400 (350)	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日	3	20ml	
			ベルクート水和剤	1,500倍	14日	3	66g		ベルクート水和剤	1,500倍	14日	3	66g	
8	９月上旬	ｶﾒﾑｼ類 ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ 落葉病 炭疽病 すす点病 うどんこ病	アグロスリン水和剤	2,000倍	前日	3	50g	400 (350)	アグロスリン水和剤	2,000倍	前日	3	50g	・周辺に水稲がある場合は農薬が飛散しないよう十分注意すること！ ・以降ハスモンヨトウが多発する場合は、サムコルフロアブル10を散布する。 ・９月中旬以降のカメムシ対策として薬剤散布する場合はテルスターフロアブルを使用する。
			トップジンＭ水和剤	1,500倍	前日	6	66g		トップジンＭ水和剤	1,500倍	前日	6	66g	
			展着剤	下記各展着剤使用基準による					展着剤	下記各展着剤使用基準による				

落葉病重点防除時期

※ボルドー体系では、2-10式ボルドーに替えて、ＩＣボルドー412の５０倍でも良い。（散布直後の降雨が懸念される場合はICﾎﾞﾙﾄﾞｰの使用は避ける。※銅の薬害のおそれあり）

薬剤散布にあたっての注意事項

（注1）

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。

周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（柿以外の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。）

農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう！

散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。

防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。

園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

（注2）

薬剤混用の順序（水和剤混用の場合） 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤

薬剤混用の順序（乳剤混用の場合） 水 → 乳剤

薬剤混用の順序（フロアブル剤、水和剤混用の場合） 水 → フロアブル剤 → 水和剤

※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

（注3）

展着剤使用基準と上記「備考欄」に記載された農薬使用基準

展着剤・農薬	展着剤及び農薬名	倍率	100ﾘｯﾄﾙあたり使用量	収穫前使用時期	総使用回数
展着剤	ブレイクスルー	5,000倍～10,000倍	10ml～20ml	―	―
		※ブレイクスルーは、薬剤調整後に添加する。			
	ネオエステリン	5,000倍～20,000倍	5ml～20ml	―	―
殺菌剤	チオノックフロアブル	500倍	200ml	30日	2回
殺虫剤	ダイアジノン水和剤	1,000倍	100g	45日	4回
	ディアナWDG	10,000倍	10g	前日	2回
	テルスターフロアブル	6,000倍	16ml	3日	2回
	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	25g	前日	3回

柿農薬混用の事例

使用回数	収穫前日数	殺虫剤 / 殺菌剤	アグロスリン水和剤	アプロード水和剤	キラップフロアブル	コテツフロアブル	サムコルフロアブル	スタークル顆粒水溶剤	スプラサイド水和剤	スミチオン水和剤40	ダイアジノン水和剤34	ディアナWDG	テルスター水和剤	テルスターフロアブル	トクチオン乳剤	MR.ジョーカー水和剤	モスピラン顆粒水溶剤
		使用回数	3	2	2	2	3	3	3	3	4	2	2	2	2	2	3
		収穫前日数	前日	開花前	7	14	前日	前日	30	30	45	前日	14	3	75	14	前日
―	―	ボルドー液	◎						×	△						●	
5	7	オーソサイド水和剤	●		●		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●
3	前日	オンリーワンフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	前日	スコア顆粒水和剤	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
2	30	チオノックフロアブル	●			●	●	●	●	●		●				●	●
6	前日	トップジンＭ水和剤	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
5	14	ビオネクト	●			●		●	●	●	●		●			●	●
3	14	ﾍﾞﾙｸｰﾄ水和剤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

JA全農にいがた　JA佐渡